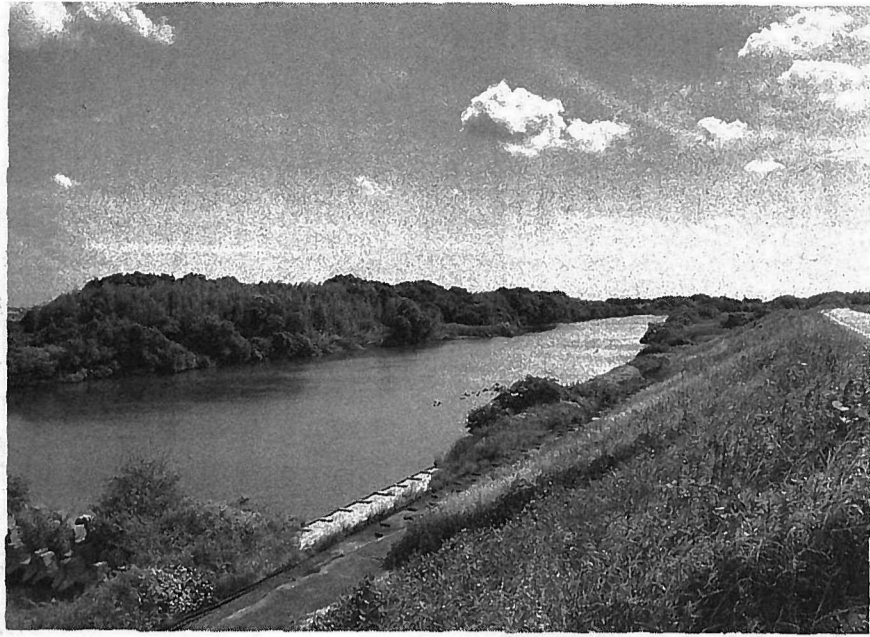


6月1〜7日は「水道週間」。水道は私たちが生きていくために、なくてはならない重要な役割を果たしている。雨水が私たちの口に入るまでに、どのような処理がされているのか？ 世界中で日本人がいかに恵まれているか？ 未来への課題は？ 本紙の関健一郎客員編集委員が豊橋市上下水道局の職員とともに、水道の歴史、今後の展望を5回にわけてお伝えする。

水をづくり届ける

豊橋市上下水道局



この地方の主な水源の豊川

の時は水が使えなくなってしまう前に、かろうじて雨が降り、何とか水をつくり続けることができました。

井戸の水

「水道水は、どこから上へ降った雨がダムにたまって、そこから流れ出た水が川となります。上にはありませんか？ 水道局は豊川（とよがわ）に流れる水をくみあげ、きれいにした水を水道水としてみなさんに飲んでいただいています。朝の洗顔から夜のシャワーまで、生活の中で水道水を使っています。」

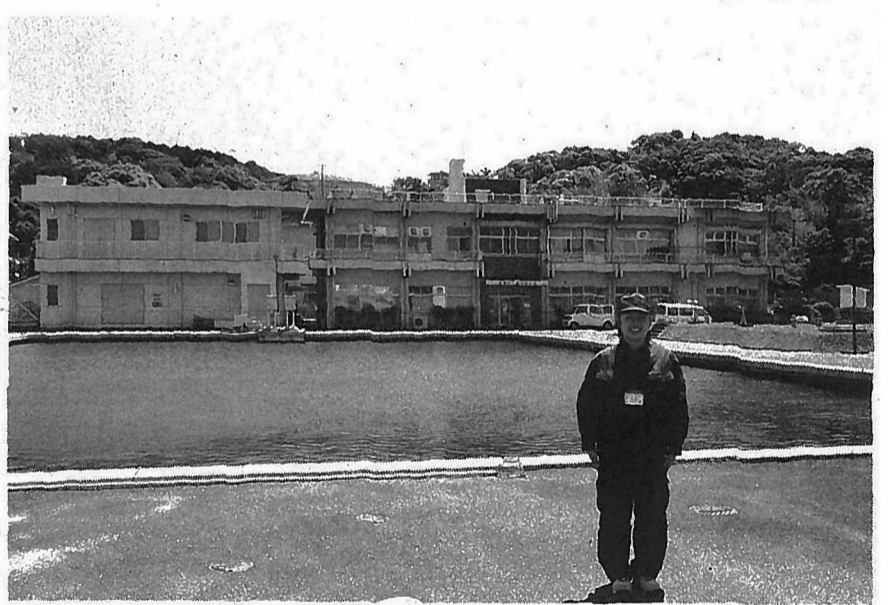
① 水道水ってどこから来るの？

水がないと困ってしまう場面は多くあります。海外に行けば、ほとんどの国で蛇口の水をそのまま飲むことはできません。私たちが当たり前に使っているきれいな水道水は一体どこからやってくるのでしょうか。

川の水

その答えは大きく分けて二つあります。その一つは「川の水」です。地

なことを想像するかも知れません。豊橋市に水道ができる前(昭和初期)はそのような井戸を使っていた。しかし、現在ある井戸は地下100メートルの深いところからポンプを使って地下水をくみ上げています。井戸の水は地上で降った雨が長い年月をかけて地下にしみこみ、その水が地下水となり、井戸水として地上にかえってくるのです。みなさんが飲んでいるその水は、はるか昔に地上に降った恵みの雨かもしれない。このように、「川の水」「井戸の水」の二つを水道水の水源としています。元をたどれば「雨がすべてといえるでしょう。雨が降ってくれないと、水道水づくりは成り立ちません。私たち職員は毎年、雨が降ることを願って、この思いは水道



川の水を浄化する小鷹野浄水場